



学校だより



学校教育目標

「学び合い、つながり合い、一人ひとりの可能性を最大限に伸ばす」

令和7年度(令和8年)1月号 枚方市立小倉小学校 電話 050 (7102) 9092

「午(うま)」のごとく、力強く未来へ駆け抜ける一年に

新年、明けましておめでとうございます。

輝かしい令和八年の新春を、ご家族お揃いでお健やかにお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

静かだった校舎に子供たちの明るい声と笑顔が戻り、いよいよ一年間の締めくくりとなる一月がスタートいたしました。

今年の干支は**「丙午(ひのえうま)」**です。「午」という漢字は、もともと「突き抜ける」という意味を持ち、馬が大地を颯爽と駆ける姿から「躍動」や「前進」の象徴とされてきました。また、「丙」は太陽のように燃え盛る火を表し、物事が目に見えて大きく成長し、形が整っていく時期を意味します。

この「丙午」の年にちなみ、本年の教育活動では、子供たちが自らの目標に向かって勢いよく駆け出すことができるよう、以下の三つの教育活動を重点的に推進してまいります。

●「自ら駆ける」学び：馬が広い野を自由に走るように、子供たちが主体的に課題を見つけ、自ら考え、解決しようとする探究心を育てます。

●「熱意」を持って取り組む：「丙」の火のように、何事にも情熱を持って粘り強く取り組み、自分自身の可能性を最大限に引き出す努力を支援します。

●「共に歩む」心：群れを大切にする馬の性質に学び、友だちと切磋琢磨し、互いの良さを認め合いながら成長できる温かな集団づくりに努めます。

一月からの三ヶ月間は、今の学年の総仕上げであると同時に、次なるステップへの大切な準備期間です。子供たちが自信に満ちた表情で、新しい学年・進路へと力強く跳躍できるよう、教職員一同、一丸となって支援してまいります所存です。

保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、本年も変わらぬご理解とご協力、そして温かなご支援を賜りますようお願い申し上げます。

皆様にとって、本年が希望に満ちた、実り多き一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

校長 雨森 正浩

いざという時のために—「備え」が命を守ります—

令和6年能登半島地震や、平成30年の大阪府北部地震、台風21号など、私たちは自然災害の脅威を身近に経験してきました。いつ起こるかわからない災害に対し、最も大切なことは「命を守ること」です。ご家庭でも今一度、防災について話合ってみませんか。

■「自助」と「共助・公助」の大切さ

災害時には、一人ひとりが自分の身を守る**「自助」、そして地域や行政が助け合う「共助・公助」**の連携が欠かせません。

◆自助(自分の身は自分で守る)：家の中の安全対策(家具の固定)や、非常持ち出し袋の準備、最低3日分(できれば1週間分)の食料備蓄を行いましょう。

◆共助(助け合い)：災害時に、まず自分自身や家族の安全を確保した後に、近所や地域の方々と助け合うということです。また、災害時に円滑に助け合いができるように、日常から地域での助け合いについて備えることです。

◆公助(行政による支援)：枚方市では避難所の開設や、自力避難が困難な方への支援体制づくりを進めています。

■「枚方市防災ガイド」を活用しましょう！

枚方市が発行している**『防災ガイド(令和7年4月改訂版)』**は、情報の宝庫です。以下のポイントをぜひチェックしてください。

◆ハザードマップの確認：自宅周辺の浸水リスクや土砂災害の危険箇所を把握し、避難経路を実際に歩いて確認しておきましょう。

◆避難行動判定フロー：「立ち退き避難」が必要か、自宅に留まる「在宅避難」が可能かを事前に判断する目安になります。

◆情報の入手手段：枚方市公式LINEやX(旧Twitter)に登録し、緊急情報をリアルタイムで受け取れる準備をしてください。

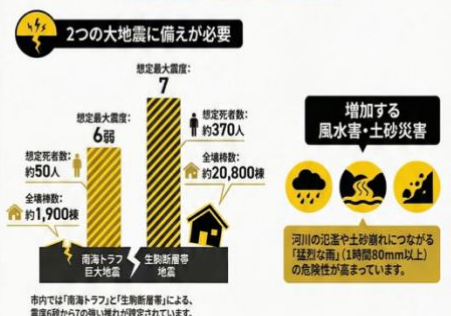
校長より：家族で「防災タイムライン」を

「避難所はどこ?」「連絡はどう取る?」など、災害時の行動を時系列でまとめた「防災タイムライン」を家族で作ることをお勧めします。学校でも子供たちの安全を第一に考え、訓練を重ねてまいります。保護者の皆さまも、ぜひ「日頃からの備え」をお願いいたします。

もしもの時に命を守る！ 枚方市 防災アクションガイド

市に想定される主な災害リスク(地震・風水害)を理解し、命を守るための準備行動

あなたの街に迫る災害リスク



命を守る3つのアクション



子どもの「主体的な学び」がなぜ重要か

この度の「令和7年度 学校教育自己診断」では、子どもの主体的な活動や学習の在り方について、貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。特に、「子どもが家で、自分で計画を立てて勉強をしている」という肯定的意見が34.3%「児童主体というより、児童に丸投げの印象があり」不完全燃焼に終わったというご懸念を、私たちは重く受け止めております。

□子どもの「主体的な学び」がなぜ重要か

こうした懸念を踏まえつつも、学校が子どもたちの「主体性」の育成を重視する背景には、次期学習指導要領に向けた国の明確な方向性があります。

現代社会は予測困難な時代へと変化しており、子どもたちには、生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、自らの人生を舵取りすることができる力が不可欠です。文部科学省の検討においても、この「自らの人生を舵取りできる力」を持つ民主的で持続可能な社会の創り手を育むことが、教育の最重要課題とされています。

この目標を実現するために、「主体的・対話的で深い学び」の実装が一層求められています。

□育むべき「主体性」の具体的な要素

ここでいう主体性とは、単に自由に任せることではありません。それは、子どもたちが「好き」(興味・関心)を育み、「得意」を伸ばすことを原動力として、次の能力を育成することを目指します。

1. 初発の思考や行動を起こす力・好奇心: まず自分で考え、行動に移してみる力。
2. 学びの主体的な調整(メタ認知): 自分の学習状況を客観的に把握し、修正していく力。
3. 他者との対話や協働: 異なる意見を持つ他者と関わり、学びを深める力。

探究活動においても、テーマを「自分で決めた」生徒ほど、将来のキャリア選択への影響を肯定的に捉えているという調査結果(52.3%)からも、主体的な学びが子どもたちの未来に深く関わるのがわかります。

学校では、行事運営や学習指導において、ご指摘の「丸投げ」とならないよう、教員が適切に指導性(ファシリテーション)を発揮し、子どもたちが「当事者意識を持って」取り組み、成長を実感できる環境を整えてまいります。特に家庭学習の自律性については、学校と家庭が連携し、子どもたちが自律的に学ぶ自信を持てるよう、具体的な指導を強化してまいります。

引き続き、本校の教育活動にご理解とご協力をお願いいたします。



放課後の過ごし方と「放課後事業」の活用について

現在、放課後に「留守家庭児童会室」や「放課後オープンスクエア」を利用せず、公園や地域で過ごしている児童の間で、トラブルが発生するケースが見受けられます。

学校としましては、お子様が放課後を安心・安全に過ごし、事件や事故、トラブルを未然に防ぐために、枚方市が推進している「**総合型放課後事業**」への参加をぜひご検討いただきたいと考えております。枚方市では、児童の状況やご家庭のニーズに合わせて、主に2つの居場所を提供しています。

1. 留守家庭児童会室（「保育」を必要とする場合）

保護者が就労等で家庭にいない児童を対象に、遊びや生活の場を提供します。

- ・ **専門スタッフによる育成**: 放課後児童支援員などの専門職が配置され、児童の発達段階に合わせた支援を行います。
- ・ **生活の場**: おやつの提供や時間管理があり、家庭的な雰囲気の中で「ホッ」とできる環境を整えています。

2. 放課後オープンスクエア（「自主的な活動」を希望する場合）

事前登録をすれば、市内に在住する全小学生が自由に参加できる居場所です。

- ・ **安全な遊び場**: 学校の教室や運動場、図書室などを活用し、大人の見守りのもとで思い切り遊ぶことができます。
- ・ **主体的な活動**: 児童が自分で「何をしたいか」を考えて活動する場であり、友達と一緒に過ごすことができます。
- ・ **利用料**: 原則無料です（ただし、登録時に保険料等として年額 1,000 円の負担が必要です）。

保護者の皆様へのお願い

放課後に一人で留守番をさせたり、子供たちだけで外遊びをさせたりすることに不安を感じる場合は、ぜひこれらの事業をご活用ください。特に「放課後オープンスクエア」は、「預かり」ではなく「主体的な活動の場」という位置づけですが、スタッフによる見守りがあり、災害時などには入退室管理システム「コドモン」を通じて状況を確認することも可能です。

お子様の安心・安全を守るため、そして放課後の時間をより豊かなものにするために、「放課後をどこで、誰と、どのように過ごすか」について、ぜひこの機会にご家庭でお子様と話し合ってみてください。

※各事業の詳細や申し込み方法については、枚方市のホームページをご確認いただくか、市役所の放課後子ども課へお問い合わせください